

令和8年6月11日

コミュニティ・スクール便り

板橋区立緑小学校 コミュニティ・スクール委員長 山口 正春

校長 市之瀬 輝明



日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力いただきましてありがとうございます。6月10日（水）に、第2回コミュニティ・スクール委員会を行いました。今回は学校支援地域本部コーディネーターと教職員も参加し、「学校教育と地域との連携」について、熟議を行いました。

熟議

1グループ5～6名で、5グループに分かれ、「えんたくん」（直径90cmの円形ダンボールの上に円形の用紙を乗せて、意見を書き込みます。）を利用して、ワールドカフェで、地域にお願いしたいことと、各グループのテーマについて話し合いました。次に、iCS委員とコーディネーター、ホスト役の教員を残し、他の教職員は他のグループに移動して、新たなメンバーで話し合いました。そして、全員がはじめのグループに戻り、意見を共有しました。最後に全体の場で、グループの報告をしました。

○環境教育・キャリア教育・起業家教育の学びを地域でどう支えるか

- ・SGV(サンシティグリーンボランティア)さんにご協力いただき、自然を生かした活動が行われている。たけのこ掘り、竹細工、焼き芋、しいたけ栽培、ピオトープなど
- ・他にも小松菜栽培、ヤゴ救出作戦、サクラソウなど環境教育が充実している。
- ・アトリエ・バンライさんと連携できるとよい。



○防災と共助を日常の学びとどうつなぐか

- ・日常の避難訓練の見直し：日々の避難訓練（火災・地震・不審者対応等）をただこなすだけでなく、日常の「備え」や意識と直結させる。
- ・サンシティとの連携深化：サンシティとの防災訓練を行う（11月）。防災ウォーキングの紹介をして参加していけるとよい。
- ・教育課程（授業）への位置づけ：「まちを見る目」の授業や、「いろいろな人の視点で町を見る」といった、多角的な視点を育む授業の継続・発展をしていくとよい。

- ・日常のつながりの重要性：「日常のつながりがあってこそその防災、PTA や地域の縦のつながり、横のつながり、地域の中にどう入っていくか」が共助の土台となる。
- ・地域の方との交流、3.11 の震災を経験した方のお話などを聞く機会があるのもよい。



○食品ロス・コンポスト・命の教育に地域がどうかかわれるか

- ・給食の残飯（多さなど）をどう「見える化」できるか。どの学年（例えば4年生など）がどのように関わるか。子供たちの主体的関わり方の模索。
- ・コンポストの存在や置いてある場所を広く知ってもらうための工夫（寺子屋の活用など）。
- ・今後の活用として、おがくずや腐葉土と混ぜて使い、肥料にしたい（今後サクラソウに使いたい）。
- ・地域の方に「食の大切さ（食べ物へのありがたさ）」についてお話を聴く。

○「子どもが真ん中」にある学びのためにどうしたらよいか

- ・教師がルールを敷いて進めている状態で、これでは「子どもが関心を持つ」ことが難しくなる。目指すべき学びの姿として、子供をメインとし、「疑問に思っ自分たちで探るのが楽しいんだ！」という経験を重ねることで、自ら探究していける子供を育てる。
- ・関心を持たせるための手段・工夫：専門的ゲストティーチャー（地域の方の力）の活用：身近な地域の方の力を借りる（仕事、地域遊び、地域密着）。
- ・普段の授業から総合的な学習の時間へのリンク。
- ・地域愛を育む環境：手紙での発信や保護者・地域の方（サンシティの方など）の協力を有効に活用し、「育みやすい環境」を整える。

○「地域とともにある学校」の具体像とは何か

- ・地域の方への挨拶・声かけを通じた一体感の醸成。
- ・サンシティとの避難訓練など、コミュニティ・スクールとこれまでに取り組んできた「ふれあい活動」をさらに発展させ、より具体的な提案へ繋げていく必要がある。



iCS 委員とコーディネーター、教職員が熟議することで、お互いの願いや考えを知りました。共通していることは、「子供たちのために」よりよいことを取り組みたいということでした。教職員だけでは気付けない新たな視点を見付けることもでき、有意義な時間となりました。

※ 次回は 11月13日（金）13：00～を予定しています。